

敦賀市立中郷小学校 いじめ防止基本方針

令和4年4月1日 改定

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長および人格の形成に重大な影響を与えるだけでなく、その生命または身体に重大な危険を生じさせるおそれがあります。いじめをなくすには、「いじめは絶対に許されない」「いじめは卑怯な行為である」ことを児童が十分に理解することが大切です。

この基本方針は、本校におけるいじめ防止に係る基本的理念および責務を明らかにするとともに、いじめ防止および解決を図るための基本となる事項を定めることにより、児童が安心して生活し、学ぶことができる環境をつくるためのものです。

ー福井県いじめ防止基本方針よりー

1 いじめの防止等の対策に関する基本理念

- (1) 本校は、一人ひとりが互いの人格の尊厳を大切にし、相互に尊重し合う社会を実現するため、児童が自分自身を大切にし、他者を思いやり、互いに助け合う「心の教育」と、そうした心に従い、勇気をもって行動できる人として育てることを重視します。
- (2) 本校は、すべての児童が、まず、どんなことがあってもいじめを行わないこと、いじめを認識しながらこれを放置しないこと、いじめが、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、十分に理解できるように努めます。
- (3) 本校は、児童が安心して生活し、学習その他の活動に心豊かに取り組むことができるよう、いじめをなくすことを目的に、市、市教育委員会、家庭、地域の関係者と連携して、いじめの防止等の対策に全力で取り組みます。

2 いじめの定義と判断

○「いじめ」とは当該児童と一定の人間関係にある他の児童が行う心理的または物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)により、当該行為の対象となった児童が心身の苦痛を感じているものを指します。

○けんかやふざけ合いであっても、見えない所で被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断します。

3 いじめの防止等のための具体的取組み

(1)「思いやりや助け合いの心を持って行動できる」子どもを育てる教育

○ほめて伸ばす教育

児童の多面的な能力を引き出し、ほめて伸ばす教育を進めることにより、自分を大切に、児童同士が互いのよいところを認め合う人間力を高めます。

○人権教育の推進

人権教育を年間計画に従って計画的に進め、発達障害のある児童への理解等、自分だけでなく、他の人の大切さも認めることができる態度を育てます。

○体験活動の推進

集団宿泊体験やボランティア活動、校外学習等を通して児童の絆を強め、お互いに認め

合い助け合う心を育てます。

○道徳教育の推進

福井県版心のノートを活用し、発達段階に応じた指導を計画的に行うことにより、思いやりの心や認め合い学びあう心、感謝の心を育てます。

○敦賀市教育委員会は、幼小接続を推進する中で、発達段階に応じて、幼児期から規範意識等の醸成に努めるとともに、就学前のガイダンス等の機会を捉え、幼児や保護者に対するいじめの未然防止に係る取り組みを促します。

(2) 学校評価への位置づけ

○校長は、その学校の実情に応じ、当該学校におけるいじめの防止等のための対策の関わる基本的な方針を定めます。

○校長は、いじめの防止等のための取り組み(環境づくり、マニュアルの実行、アンケート、個人面談・保護者面談の実施、校内研修の実施等)に係わる項目を学校評価に位置づけ、学校におけるいじめの防止等のための取り組みの改善に努めます。

(3) いじめの未然防止

○授業改善

すべての児童にとって、分かりやすい授業のあり方について、公開授業や授業研究を行い、児童が楽しく学べる教育に努めます。

○いじめの起きない学校・学級づくり

縦割り班活動や異年齢交流活動を行い、児童が安心して過ごせる「心の居場所づくり」や児童が主体となって互いに認め合い励ましあう「絆づくり」を進めます。

○児童の主体的活動の充実

学級活動や児童会活動等を活用して、児童の主体的な活動によるいじめ防止等の取り組みを推進します。

○開かれた学校

「開かれた学校」の観点に立ち、いじめへの対処方針や年間指導計画等、いじめ防止策に関する情報を積極的に公表し、保護者や地域住民等の理解や協力を求めます。

○インターネットや携帯電話等に関する指導

インターネットや携帯電話等の正しい利用についての呼びかけや意識付けを行います。保護者に関しても校区小学校と連携してネット利用のルールをつくり、インターネットやSNS等の利用や情報モラルについての呼びかけや意識付けを行い、保護者に対しても家庭でのルールづくり等の啓発を行い、児童や保護者がインターネット上のいじめ予防に向けた啓発に努めます。また、情報モラルに関する指導を推進します。

○校長は、以下の児童生徒を含め、特に配慮が必要な児童生徒について、日常的に、当該児童生徒の特性を踏まえた適切な支援を行うとともに、保護者との連携、周囲の児童生徒に対する必要な指導を組織的に行います。

- ・発達障害を含む、障害のある児童生徒
- ・海外から帰国した児童生徒や外国人の児童生徒、国際結婚の保護者を持つなどの外国につながる児童生徒
- ・性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒
- ・東日本大震災により被災した児童生徒又は原子力発電所事故により避難している児童生徒
- ・コロナウイルス感染者及び親族内に感染者がいる児童生徒

(4) いじめの早期発見

○積極的ないじめの認知

児童の表情やしぐさをきめ細かく観察するとともに、わずかな変化に対してもいじ

めの兆候ではないかとの疑いを持ち、積極的にいじめを認知するよう努めます。

○自己チェックの活用

児童が日々の生活を振り返るための自己チェックを行い、それを学級担任が確認することにより、いじめ等の早期発見に努めます。

○アンケートの実施

定期的にいじめの実態調査を行い、いじめ等の問題の早期発見に努めます。

○教育相談体制の充実

学級担任による定期的な個別面談を通して、学習や人間関係の悩み等を聞き取ると同時に、適切な助言と学級全体への働きかけにより好ましい人間関係の構築を図ります。

○家庭や地域との連携

家庭訪問や電話連絡などを通して、日ごろから保護者との情報交換を密にするとともにアンケート調査、聞き取り調査等を行いいじめの早期発見に努めます。また、地域の住民や関係団体との連携を進めることにより、家庭や地域における児童の変化を見逃さないように努めます。

(5) いじめ事案への対処(事案対処)

○「いじめ対応サポート班」による対応

特定の教職員で抱え込まず速やかに情報を共有し、「いじめ対応サポート班」による立案、対応により組織的な対応で被害児童を守ります。

○被害・加害児童への対応

いじめを受けたあるいは報告した児童の心のケアを行い、安全を確保するとともに、いじめたとされる児童に対して事情を確認した上で、適切な指導を行います。

○外部人材の活用と関係機関との連携

必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールサポート一等の外部専門家、警察や児童相談所、地方法務局、医療機関、民生児童委員等の関係機関と連携を取りながら、早期解決に向けた最善の方法を講じます。

(6) いじめの解消

○いじめは、謝罪をもって解消したと安易に考えることのないようにします。いじめが「解消している」状態とは、少なくとも次の2つの要件が満たされている必要があります。ただし、これらの要件が満たされている場合であっても、必要に応じ、他の事情も勘案して判断するものとします。

①いじめに係る行為が病んでいること

被害者に対するいじめの行為(心理的または物理的な影響を与える行為等)が止んでいる状態が相当の期間継続していること(少なくとも3か月を目安とする)。ただし、いじめ被害の重大性等からさらに長期の期間が必要であると判断される場合は、この目安に関わらず、校長の判断により、より長期の期間を設定します。校長は、相当の期間が経過するまでは、被害・加害児童生徒の様子を含め状況を注視し、行為が止んでいない場合は、改めて、相当の期間を設定し状況を注視します。

②被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと

いじめに係る行為が止んでいるかどうかを判断する時点において、被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないと認められることであり、校長は、被害児童生徒本人及びその保護者に対し、面接等により確認します。

校長は、いじめが解消に至っていない段階では、被害児童生徒を徹底的に守り通します。「いじめ対策サポート班」においては、いじめが解消するに至るまでの期間、被害児童生徒への支援内容、情報共有、教職員の役割分担を含む対処プランを策定し、実行します。上記のいじめが解消している状態に至った場合でも、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、校長は、被害・加害児童生徒については、日常的に注意深く観察します。

(7) いじめによる重大事態への対処

○いじめにより、「生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑い」や、「相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑い」があるときは、次の対処を行います。

- ・重大事態が発生した旨を市町教育委員会に速やかに報告します。
- ・学校が調査主体になる場合は、調査組織の設置、事実関係調査、関係保護者への情報提供、市町教育委員会への調査結果の報告を速やかに行います。
- ・市町が調査主体になる場合は、事実関係を明確にするための調査に協力します。

4 いじめの防止等のための組織

(1) いじめ対策委員会

いじめの防止等に関して指導の方策等を協議するため、次の機能を担う「いじめ対策委員会」を常設し、定期的を開催します。

(構成員) 校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、学年主任、養護教諭、特別支援コーディネーター

- (活動)
- ・未然防止を中心とした、いじめ問題対応の年間行動計画の作成
 - ・「思いやりや助け合いの心を持って行動できる」子どもを育てるための具体的な活動の計画、実践、振り返り
 - ・いじめが起きない学校・学級づくりのための「心の居場所づくり」についての協議
 - ・児童間の「絆づくり」のための計画的な教育活動の実践
 - ・いじめ発見のためのチェックシステムの工夫と迅速な情報交換、連絡体制づくり
 - ・校内研修や学級活動のための資料収集や資料作成
 - ・計画的なアンケート調査や個人面談の計画
 - ・学校におけるいじめ問題への取組みの点検

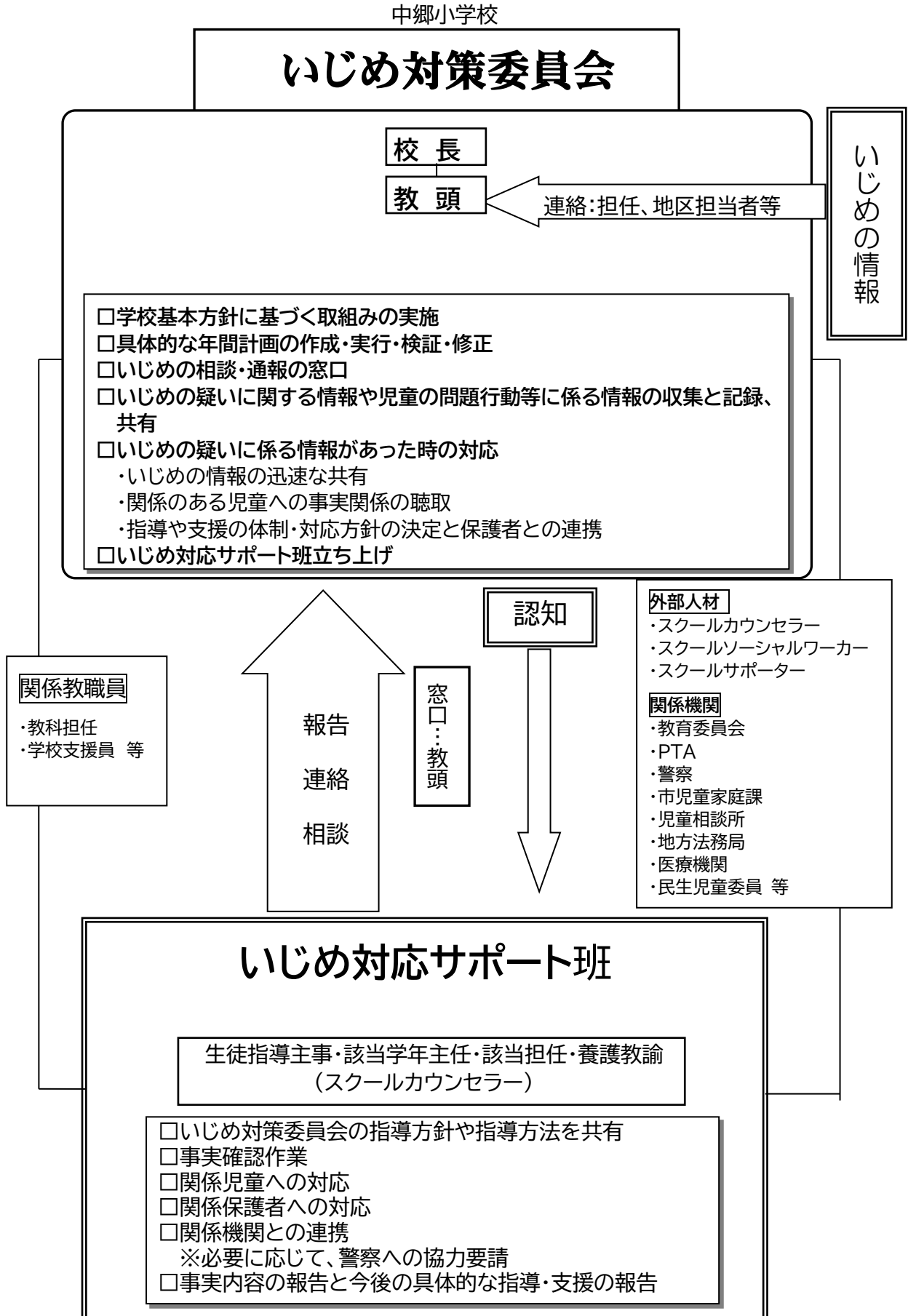
(2) いじめ対応サポート班

いじめが起きたとき、次の機能を担う「いじめ対応サポート班」を設置し、いじめの早期解決に向けた取組を行います。

(構成員) 教頭、生徒指導主事、該当学年主任、該当担任、養護教諭、(スクールカウンセラー)

- (活動)
- ・当該いじめ事案の対応方針の決定
 - ・個別面談による情報収集
 - ・継続的な支援
 - ・保護者や地域との連携
 - ・スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカー等の外部人材や、警察、児童相談所などとの連携

(3)組織図



5 いじめ対策の年間行動計画

(1)年間を通した行動

①学級(居場所)づくり

年間に数回の現職教育を持ち、学級開きのあり方や、学級経営の進め方等について自主研修会を持ち、誰もが自己有用感をもつことのできる学級経営を行う。

②授業研究会の実施

各担任が全員、年間1回以上の研究授業を公開する。またそれに伴う事前研究会や事後研究会を持つことで、教員の授業力の向上を図り、授業で活躍できる子どもを増やす。

③道徳教育の充実

年間指導計画に基づいて、積極的に体験活動やボランティア活動を取り入れたり、「心のノート」を有効に活用したりして、思いやりの心や、認め合い、学び合う心、感謝の心を育てる。

(2)適時指導

①いじめ対応サポート班の設置

いじめの徴候が見つかった場合には、即時チームで対応に当たり、必要に応外部機関とも連携しながら早期に対応し、いじめが深刻化することを防ぐ。

【いじめ対策の年間行動計画】

敦賀市立中郷小学校

	教員の動き等	児童の活動等					
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
4 月	いじめ対策委員会 ・基本方針確認 ・年間計画策定	入学式(1年) ・保護者への啓発					
	職員会議 ・年間計画の周知	学級開き(居場所づくり)委員会・係決め					
	校内研修会 ・特別支援教育の理解	1年生を迎える会(絆づくり・リーダー養成)					
	PTA 総会 ・保護者との信頼関係の構築	縦割り活動計画スタート (異学年交流・絆づくり)					
5 月		国の「いじめ防止等のための基本的な方針」の改訂 に係わる留意事項の周知徹底					
	いじめ対策委員会 ・各学級の状況把握	いじめの自己チェック 学級ごと通年で					
	校内研修 ・学習の進め方 ・学習規律	アンケート調査					
		縦割り班会議 ・自主的な活動 ・絆づくり					

<p>6 月</p>	<p>いじめ対策委員会の開催 ・各学級の状況把握</p> <p>授業研究会 ・居場所・絆づくりを 意識した授業のあり方</p> <p>学校評議委員会 ・学校経営方針説明</p> <p>校内研修会 ・特別支援教育の理解</p>	<p>いじめ自己チェック</p> <p>ふれあいタイム(教育相談)実施</p> <p>町たんけん (絆づくり)</p> <p>5年 宿泊学習</p> <p>修学旅行 (絆づくり)</p> <p>縦割り遊び(異学年交流・絆づくり)</p>
<p>7 月</p>	<p>いじめ対策委員会の開催 ・各学級の状況把握 ・夏季休業前の指導</p> <p>授業研究会</p> <p>校内研修会 ・特別支援教育の理解</p>	<p>アンケート調査</p> <p>いじめ自己チェック</p> <p>ひまわり 教室 (非行防止)</p> <p>地区集会 ・情報収集 ・夏季休業前指導</p> <p>教育懇談会(情報収集)</p>
<p>8 月</p>	<p>いじめ対策委員会 ・アンケートの分析をも とにした振り返り</p> <p>職員会議 ・重点事項確認</p>	<p>子ども会行事への参加(異学年交流・絆づくり) 親子読書(親子の絆づくり) お手伝い(自己有用感)</p> <p>小中連携 合同授業 (自己有用感)</p> <p>アンケート調査 ・夏季休業中の事件・事故の調査</p>
<p>9 月</p>	<p>いじめ対策委員会の開催 ・各学級の状況把握 ・1学期の取組評価</p> <p>授業研究会</p> <p>校内研修会 授業研修</p>	<p>いじめ自己チェック</p> <p>アンケート調査</p> <p>縦割り遊び(異学年交流・絆づくり)</p> <p>親子情報モラル学習会(規範意識)</p> <p>保育園児 との交流 (絆づくり)</p>

<p>10月</p>	<p>いじめ対策委員会の開催 ・各学級の状況把握</p> <p>授業研究会</p> <p>校内研修会 ・人権週間の取り組み</p>	<p>いじめ自己チェック</p> <p>教育懇談会(※希望者のみ 情報収集)</p> <p>お年寄りとの交流 (昔遊び)</p> <p>手話体験 点字体験 (障害者理解)</p> <p>親子奉仕作業(自己有用感)</p> <p>スポーツフェスティバル・絆を強める・種目練習</p> <p>校外学習(絆づくり)</p>
<p>11月</p>	<p>いじめ対策委員会の開催 ・各学級の状況把握</p> <p>授業研究会</p> <p>校内研究会</p> <p>学校評議委員会 ・学校運営中間評価</p>	<p>いじめ自己チェック</p> <p>アンケート調査</p> <p>人権週間の取り組み (全校集会・学級活動)</p> <p>ふれあいタイム(教育相談)実施</p>
<p>12月</p>	<p>いじめ対策委員会の開催 ・各学級の状況把握</p> <p>授業研究会</p> <p>校内研修会 ・授業力向上研修</p>	<p>いじめ自己チェック</p> <p>にこにこ文化ウィーク(自己有用感・絆づくり)</p> <p>家の仕事 調べ (感謝)</p> <p>心のバリア フリー学習 (思いやり)</p> <p>校外学習 敦賀ムゼ ウム (人道学習)</p> <p>教育懇談会(情報収集)</p>

1 月	<p>いじめ対策委員会の開催 ・各学級の状況把握</p> <p>教育懇談会 ・情報や意見収集</p>	<p>いじめ自己チェック</p> <p>アンケート調査</p> <p>保育園児との交流 (絆づくり)</p> <p>給食週間(感謝)</p>
2 月	<p>いじめ対策委員会の開催 ・各学級の状況把握</p> <p>校内研究会 ・研究のまとめ ・次年度の方針検討</p> <p>学校評議委員会 ・学校関係者評価</p>	<p>いじめ自己チェック</p> <p>なわとび大会(異学年交流)</p> <p>赤ちゃん パワー学習 (自己存在 感・感謝)</p> <p>公開授業</p> <p>小中連携 学校紹介 ガイダンス (居場所 づくり)</p> <p>6年生を送る会 ・感謝の心 ・次学年への自覚</p>
3 月	<p>いじめ対策委員会の開催 ・今年度の振り返り ・次年度の方針検討 ・情報発信 (学校評価アンケート 結果等)</p>	<p>いじめ自己チェック</p> <p>アンケート調査</p> <p>地区集会 ・情報収集 ・新学年対応</p> <p>新入生への 贈り物 (居場所 づくり)</p> <p>卒業式の 準備 (感謝・ 自覚)</p> <p>卒業式の 準備 (感謝・ 自覚)</p> <p>卒業式(感謝・自己存在感)</p>